

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 尾崎 朋子

文 責 佐々木 正道

発行日 平成30年7月25日

こつこつ、こつこつです

校長 尾崎 朋子

今月は全国的に予想もしなかった大雨にみまわれ、旭川でも被害にあわれた方がいたり、いくつかの学校が避難所になるなどの対応に追われました。西日本の大雨による災害の報道を見ると本当に心が痛みます。一日も早い復旧を願うばかりです。

さて、一学期が本日で終了します。保護者や地域の皆様には、今学期の本校の教育活動に対しまして温かいご支援やご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今学期は、修学旅行や体育祭などの大きな行事がありましたが、いずれも生徒が自分たちで考えて取り組み、大きな成果をあげることができました。また、中連旭川地区大会や上川代表決定戦では、最後まで油断しないことや、決してあきらめないことの大切さを、生徒の姿からあらためて実感させられたところです。

さて、2016年の本屋大賞を受賞した「羊と鋼の森」という小説があります。旭川とその周辺でロケを行い、映画化され、現在上映されています。この作品は、ピアノの調律に魅せられた青年が、調律師として、人として成長していく姿を描いていますが、今回の学校だよりのタイトルの「こつこつ、こつこつです」は、この小説の中に出てくる言葉です。



調律師としての一步を踏み出した青年は、早く一人前になりたい、先輩達のような技術を身に付けたいと気持ちばかりが急いでいました。その姿を見て先輩調律師がこう言います。「焦ってはいけません。こつこつ、こつこつです。」

勉強でも部活動でも、なかなか自分の思い描いているようにならなかったり、目標に届かないということがあられると思います。世間でよく言う「奇跡」と呼ばれることも、積み重ねてきた練習や努力に裏付けされた結果であって、何もせずに何かがいきなりできるようになるということは滅多にないと思います。

では、何をどのように「こつこつ」やっていったらいいのでしょうか。箱根駅伝の優勝常連校である青山学院大学の原監督は、こんなふうに話しています。

人間はそもそも怠け者だと私は考えています。だから、ある程度の指針をつくり、レールを引いてまず着地点をつくる。着地点がないと、努力の方向がぼやけてしまいます。何に向かっていくのかわからない。そうすると、人間は「遊ぶ」動物ですから、いろいろな誘惑に負けて逃げてしまうのです。これは当たり前なこと、よいか悪いかという話ではありません。ですので、それを戻すべき場所に戻してやる必要があります。この意味で「目標」が大切となるのです。個人の目標は、何も壮大である必要はありません。キーワードは「半歩先」。できることを確実にクリアしていくことです。たとえば、ミカンの木があります。甘い酸っぱいか食べてみないとわからない。そうすると、高いところのものより、手の届くところのを少し食べてみますよね。うまいと感じたら、今度はもう少し高いところのミカンを取りに行きます。このように、一つ一つの課題をクリアしていくことで、人間というのは「うまみ」を求めて努力して、次の枝、上の方の枝へとミカンを取りに行くのですよ。その繰り返しだと私は考えています。このような「成功体験」が成長には必要だということです。

学校としましては、子ども達の手の届くことから、一つ一つ積み上げて成長していただけるよう取り組んで参りたいと思っております。ご家庭におかれましては、明日からの夏休みでは、子ども達がこつこつ、こつこつと力を蓄え、充実した25日間となりますよう、お力添えをよろしくお願いいたします。